

令和3年春の叙勲・褒章受章者

4月29日に叙勲受章者及び褒章受章者が発表され、以下の会員が榮に浴されました。
心よりお慶び申し上げます。

叙勲受章者の横顔



旭日中綬章（弁理士業務功勞）

わた なべ けい すけ
渡 邊 敬 介

学歴・職歴

昭和50年 千葉工業大学工学部機械工学科卒業
昭和50年～平成2年 豊田内外特許事務所
平成3年～平成26年 豊田・渡辺内外特許事務所
（平成17年に豊栄特許事務所に改称）所長
（現在）豊栄特許事務所 顧問

弁理士会歴

昭和63年 弁理士登録（9682号）
平成5年度 会誌委員会 副委員長
平成8年度～平成9年度 弁理士会常議員
平成11年度 令規改正検討委員会 副委員長
平成13年度 会誌委員会 副委員長
平成14年度 民間調査機関設立検討委員会 委員長
平成17年度 日本弁理士会執行補佐役
平成17年度 次年度会務検討委員会 副委員長
平成18年度 日本弁理士会副会長
平成19年度 弁理士推薦委員会 副委員長
平成23年度～平成24年度 関東支部 副支部長
平成26年度 組織改革特別委員会 副委員長
平成27年度～平成28年度 組織改革特別委員会 委員長
平成29年度～平成30年度 日本弁理士会会長
平成29年度 登録審査会 会長
令和2年度 日本弁理士会副監事長

公職

平成20年～平成23年 財務省関税局専門委員
平成29年～平成31年 知的財産戦略本部員
平成29年～平成31年 産業構造審議会専門委員

懇談会

令和2年 第1回臨時総会 総会議長

賞

平成10年 弁理士会特別功勞表彰
平成19年 日本弁理士会特別功勞表彰
平成20年 日本弁理士会特別功勞表彰
平成21年 弁理士制度110周年記念式典特別功勞者表彰
平成23年 日本弁理士会永年功勞表彰

平成 24 年 日本弁理士会感謝状
平成 28 年 日本弁理士会特別功労表彰
令和 元年 日本弁理士会感謝状
令和 元年 日本弁理士会特別功労表彰
令和 元年 弁理士制度 120 周年記念式典特別功労者表彰

受章に浴して

令和 3 年春の叙勲の榮譽に浴することができ、これもこれまでの皆様のご支援ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

昭和 63 年に弁理士登録し、平成 3 年に事務所を運営し始めてから十数年は弁理士業務に没頭する毎日でした。平日のほとんどは夜遅くまで事務所に籠っていたことを思い出します。

平成 18 年度には谷義一会長の下で副会長を務めさせて頂きました。会長と副会長、副会長同士、更には執行理事や事務局との連携が重要であることはこの時に実感しました。この副会長の 1 年は、不慣れなため躓きも多かったのですが、単独行動となりがちな弁理士業務とは異なり、チームとしての行動を感じられる楽しい 1 年でした。

平成 29 年度、30 年度は会長を務めさせて頂きました。この会長の 2 年間は、「知財広め隊」を組織しての中小企業支援、リーマンショック以来低迷している弁理士業務環境の改善、新たな広報戦略の展開等に力を注ぎました。現在のコロナ禍を乗り越え、これまで以上の活力を取り戻すためにも、中小企業には元気になってもらいたいと思っております。

天然資源の乏しい日本にとって知財は重要な武器です。これからもうしばらくは知財制度発展のために微力ながら尽力させて頂く所存です。

最後になりましたが、私に知財分野の仕事への扉を開いて下さった故豊田善雄先生と、弁理士へと導いて下さった福田賢三先生に深く感謝申し上げます。



旭日双光章 (弁理士業務功労)

お ぎ き こう ぞ う
尾 崎 光 三

学歴・職歴

昭和 36 年 早稲田大学第一理工学部電気工学科卒業
昭和 36 年～昭和 50 年 松下通信工業株式会社
昭和 51 年～平成 16 年 尾崎技術特許事務所
平成 17 年～平成 20 年 瀧野国際特許事務所 技術顧問
平成 21 年～（現在） 尾崎技術士特許事務所

弁理士会歴

昭和 51 年 弁理士登録 (8149 号)
昭和 57 年度 特許委員会 副委員長
昭和 59 年度 特許事務報酬制度委員会 副委員長
昭和 59 年度～昭和 60 年度 弁理士会常議員
昭和 63 年度 国際活動委員会 副委員長
平成 元 年度 次年度会務運営等検討委員会 副委員長
平成 3 年度 弁理士法改正特別委員会 委員長
平成 5 年度 研修所 運営委員 (部長)
平成 6 年度～平成 7 年度 研修所 副所長
平成 9 年度 中小企業等アンケート調査委員会 副委員長
平成 15 年度 知的財産価値評価機関設立検討委員会 副委員長
平成 20 年度～平成 21 年度 知的財産価値評価推進センター 運営委員 (部長)
平成 20 年度～平成 25 年度 関東支部 副支部長
平成 21 年度～平成 28 年度 知的財産価値評価推進センター 副センター長
平成 27 年度～平成 28 年度 関東支部 幹事
平成 29 年度 日本弁理士会副会長
平成 30 年度～令和 元 年度 日本知的財産仲裁センター 監事
平成 31 年度～令和 2 年度 日本弁理士会常議員
平成 31 年度～現在 関東会 監査役

公職

昭和 59 年～昭和 61 年 技術士第二次試験委員 (電気通信)
平成 9 年～平成 11 年 技術士第二次試験委員 (電気応用)
平成 12 年～平成 20 年 早稲田大学理工学術院非常勤講師
平成 14 年～平成 23 年 早稲田大学産学官研究推進センター
(承認 TLO) 発明審査委員会委員
平成 16 年 日本知的財産仲裁センター判定第 1 号の判定人
平成 21 年 工業所有権審議会試験委員
平成 22 年 工業所有権審議会試験委員
平成 24 年～現在 早稲田大学リサーチイノベーションセンター 知財戦略会議委員
平成 30 年～令和 2 年 日本弁理士協同組合理事

賞

昭和 59 年 日本技術士会表彰状
平成 3 年 弁理士会特別功労表彰
平成 10 年 弁理士会特別功労表彰
平成 11 年 弁理士会永年功労表彰
平成 22 年 日本弁理士会感謝状
平成 23 年 日本弁理士会感謝状
平成 23 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 27 年 日本弁理士会特別功労表彰

平成 30 年 日本弁理士会特別功労表彰

令和 元年 弁理士制度 120 周年記念式典特別功労者表彰

令和 2 年 日本弁理士協同組合感謝状

受章に浴して

この度の受賞は、会員の皆様方からのご支援、ご教導の賜物であると承知し、感謝致します。特に、当会、特許庁、経済産業省のご関係各位のご厚情によるところにも、お礼を申し上げます。一層の業務貢献に向けて精進する所存であります。

省みますと、14 年間に亘る企業での新製品開発業務の中で、研究開発と発明生産の管理の一体化を巡る新体制の構築に携わる機会があり、その際に、弁理士資格の職業的有望性に気づいたのが、私の弁理士人生の切っ掛けであります。

会務的には、昭和 58 年以降の 11 年間、研修所にて、明細書作成実務担当講師として、同年代登録の多くの会員の方々と互学互習のご縁を享有できたことに感謝しています。

平成 3 年度の瀧野秀雄会長時代には、弁理士法改正特別委員会の委員長として、唐木浄治副会長のご指導の下、纏め上げた改正草案では、後の平成 12 年度改正で導入された「標榜業務」「支所」「法人事務所」を目玉事項に位置付けましたが、当時の会員からは、歓迎されませんでした。「先見の明」が仇となった失敗への教訓が残りました。

平成 29 年度には、渡邊敬介会長のご指導の下、副会長を務めさせて頂き、「広め隊」「地域会」「弁理士知名度向上広報戦略」等の成果の見える目玉プロジェクトに向けて役員会全体が注力する中、会員の皆様のご支援を頂いて実績を挙げる事ができました。

末筆ながら、私の弁理士人生を支えてくれた私の妻への謝辞を添えます。



瑞宝小綬章 (経済産業行政事務功労)

たけ ばやし のり ゆき
竹 林 則 幸

学歴・職歴

昭和 49 年 熊本大学大学院工学研究科修了
昭和 49 年 特許庁入庁
昭和 53 年 審査第四部審査官 (応用化学, 化学工学, 医療)
昭和 60 年 電子計算機業務課総括機械化推進官
平成 3 年 審判部審判官 (16 部門: 事務機器)
平成 4 年 審判部書記課長補佐
平成 5 年 審査第四部先任上席審査官 (環境化学)
平成 6 年 (社) 発明協会国際協力部参事
平成 8 年 審査第二部上席総括審査官 (土木工学)
平成 9 年 審査第二部調整課審査基準室長
平成 11 年 審査第四部医療上席審査長
平成 13 年 審判部審判長 (21 部門: 医療)
平成 16 年 審判部部門長 (21 部門: 医療)
平成 17 年 特許庁退職
(現在) すばる特許事務所 副所長

弁理士会歴

平成 17 年 弁理士登録 (14013 号)

受章に浴して

令和三年春の叙勲の栄に浴し大変光栄に存じます。この機会をお借りして、特許庁、日本弁理士会をはじめ、これまでご指導ご鞭撻を頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

私の在職中、特許庁では、迅速かつ的確な審査の推進と国際化への対応に向けて、ペーパーレス計画の策定と実施、特許制度の国際ハーモナイゼーションや途上国への協力事業などが進められており、私自身も、諸先輩方のご指導の下に、審査審判の実務はもとより、これらに関連する業務にも僅かながらも関わることができましたことは、大変に幸運であったと感じています。

昨今、省庁等でのデジタル化の推進が叫ばれていますが、特許庁は 30 年以上も前に電子出願の受付を開始し、現在では電子出願比率が 95% を超えています。審査の迅速化では、数年前に FA11 の目標を達成し世界最速の審査を実現しています。さらに、多くの特許庁の職員が世界各国で活躍しており、誇らしく思います。

私は、現在、弁理士として、知的財産に関わる仕事を続けておりますが、今年の弁理士法改正により、弁理士の業務範囲はさらに広いものになっています。今後も、微力ながら、制度の進展に遅れぬよう努力を続けてまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



瑞宝小綬章 (経済産業行政事務功労)

とよ おか しず お
豊 岡 静 男

学歴・職歴

昭和 47 年 京都大学理学部物理学科卒業
昭和 47 年 特許庁入庁
昭和 51 年 審査官 (測定)
昭和 53 年 審査官 (応用物理)
平成 元年 審判官 (14 部門: 光学機器)
平成 5 年 主任上席審査官 (事務機器)
平成 6 年 光学機器室長
平成 7 年 審査長 (事務機器)
平成 9 年 審判長 (16 部門: 事務機器, 14 部門: 光学機器)
平成 12 年 部門長 (8 部門: 光デバイス)
平成 13 年 東京高裁調査官兼最高裁調査官
平成 16 年 首席審判長
平成 18 年 特許庁退官
平成 18 年 三好内外国特許事務所
(現在) 三好内外国特許事務所

弁理士会歴

平成 18 年 弁理士登録 (14690 号)

受章に浴して

令和 3 年春の叙勲の榮譽に浴し、自身の業績に鑑みると、身に余る光榮と感謝しています。これもひとえに、特許庁、弁理士会をはじめ、公私にわたりご指導をいただいた皆様方のお陰です。

特許庁に入庁以来、知財業務への関与は 50 年目に入りましたが、飽きることなく、益々魅力と面白さを感じています。審査官時代は狭い技術分野で特許権の付与に関与し、審判官時代はやや広い技術分野で審査官の判断の是非や審決取消事件に関与し、裁判所調査官時代はさらに広い技術分野で審決取消事件等の裁判官への技術的サポート業務に関与し、首席審判長時代は全技術分野で、審決取消事件の準備書面の決裁、判決の検討、主要審決のチェック等に関与し、弁理士として訟務業務 (無効審判、審決取消訴訟、鑑定等) に関与してきました。技術分野及び業務内容が徐々に広がるにつれ、知財業務の新たな魅力を発見し、業務を面白く感じるようになったと思われます。

またこの間テニスを通じて、特許庁の先輩・後輩・知財関係の裁判官等と繋がりができ、特許事務所でもテニス仲間ができ、現在も唯一の趣味として健康維持目的で続けています。官庁対抗戦で皇居内のテニスコートで宮内庁と対戦した折、当時の天皇皇后両陛下のテニスを間近で拝見・経験できたことは一生の思い出となっています。

微力ながら、しばらくは訟務業務を通じて貢献したいと考えていますので、今後ともよろしく願います。



瑞宝小綬章 (経済産業行政事務功労)

お び な た か ず ゆ き
大 日 方 和 幸

学歴・職歴

昭和 49 年 電気通信大学電気通信学部通信工学科 卒業
昭和 51 年 電気通信大学大学院電気通信学研究科通信工学専攻修士課程 修了
昭和 51 年 特許庁 入庁 (審査第五部通信 審査官補)
昭和 59 年～昭和 60 年 審査第二部調整課審査基準室 併任
昭和 62 年 日米審査官交流プログラムに参加
平成 4 年～平成 12 年 東京工業大学工学部経営工学科講師 併任
平成 6 年 審査第五部情報処理上席審査官
平成 11 年 審査第四部半導体機器審査長
平成 12 年 審査第五部電話通信審査長
平成 12 年～平成 13 年 工業所有権研修所 併任
平成 13 年 審判部第 29 部門審判長
平成 15 年～平成 17 年 工業所有権審議会弁理士審査分科会臨時委員 併任
平成 18 年 審判部第 27 部門長
平成 20 年 特許庁 退官
(現在) 特許業務法人浅村特許事務所

弁理士会歴

平成 20 年 弁理士登録 (15952 号)
平成 29 年度 関東支部 知財教育支援委員会 副委員長
平成 30 年度 関東支部 知財教育支援委員会 副委員長
平成 31 年度 関東会 知財教育支援委員会 副委員長

受章に浴して

令和 3 年春の叙勲の栄誉に浴することができましたのは、ひとえに、皆様方のご指導ご鞭撻の賜物と深く感謝申し上げます。

特許庁では、通信・映像機器・情報処理・半導体機器・インターフェイスの審査・審判に従事しました。特に、米国特許商標庁での日米審査官交流プログラムが印象に残っています。このプログラムで、私は、米国の審査官と共に、日米双方に出願された電話通信分野の特許出願を審査し、日米双方の審査内容を比較しました。その結果、明らかになった違いに驚き、私が米国の審査について強い関心を持つきっかけになりました。そして、米国の特許に関する判例について、毎週、数名の審査官と集まって勉強会を続けることで、米国の特許実務の理解と英語力の向上に努めるようになりました。

特許庁退官後は、弁理士として外国関連の特許出願に関わることができましたので、特許庁時代の経験を活かすことができたことと満足しております。

今後とも、微力ながら知的財産制度の更なる発展を支援する所存でありますので、宜しく願い申し上げます。



瑞宝小綬章（経済産業行政事務功労）

たか はし やす ふみ
高 橋 泰 史

学歴・職歴

昭和 49 年 広島大学大学院工学研究科電子工学専攻（修士課程）修了
昭和 49 年 特許庁入庁
昭和 53 年 審査第五部審査官（電子応用，音響機器）
昭和 54 年～昭和 55 年 審査基準室
平成 3 年 審判部審判官（第 13 部門）
平成 4 年 審査第五部審査官（情報記録）
平成 9 年 審査第五部上席総括審査官（映像機器）
平成 10 年～平成 13 年 裁判所調査官（東京地方裁判所）
平成 13 年 審判部主席審判官（第 1 部門）
平成 14 年 審判部審判長（第 1 部門）
平成 14 年～平成 17 年 審判部訟務室
平成 17 年 審判部審判長（第 2 部門）
平成 18 年 審判部部門長（第 2 部門）
平成 20 年 特許庁退官
平成 20 年 特許業務法人勤務
（現在） 青稜特許業務法人

弁理士会歴

平成 20 年 弁理士登録（15953 号）

受章に浴して

この度は，令和 3 年春の叙勲の榮譽に浴し，身に余る光栄に存じます。これもひとえに，特許庁，弁理士会をはじめとして，皆様方のご指導，ご支援の賜と深く感謝申し上げます。

また，今回の叙勲にあたり，弁理士会をはじめ関係各位からご丁寧なる祝意をいただき，真に有り難うございました。

昭和 49 年に特許庁に入庁しまして，長く情報記録関係の審査にたずさわりました。具体的には，テープレコーダ，VTR，ビデオディスク，光ディスク，光磁気ディスクなど，日本で開発・改良された製品が広く世界に供給され，多くの出願が行われていた分野を担当しました。その後，東京地裁では，均等論や無効の抗弁の最高裁判決が出た時期に調査官を経験しました。また，特許庁に戻って，訟務室で審決取消訴訟の対応を行うなど，貴重な経験をさせていただきました。

特許庁を退職しまして，弁理士の仕事が 13 年になります。弁理士会では集合研修や E ラーニングで，特に外国出願のプラクティスを教えていただきました。また，クライアントの方々や事務所の皆様に色々のご指導いただきました。これまで弁理士を続けられましたのは，皆様のおかげと感謝しております。

コロナの影響で，昨年からの仕事の仕方も一変しました。在宅勤務・テレワークが中心となり，発明者様などとの打ち合わせも専らオンラインとなりました。早くコロナが終息して，日常が戻りますようお願いしております。